



## 「木の葉ブログ」(ビジネススキル強化お役立て情報)

「マーケティング・その他」の話題から(2016年9月22日投稿)

### エドワード・デボノ博士が提唱した「水平思考」とは 発想法(1)

9月初旬に起業を目指している女性向け(既に起業している人も含む)セミナーで2講座担当させていただき、そのうちのひとつが「発想法」でした。これまで読んだ関連書籍やメモをすべて見直すという、にわか仕込みの登壇でしたが、意外にも好意的な反応をいただきました。そこで、今回から自らのおさらいの意味も含めて「発想法」について書いてみます。

#### ロジカル・シンキングとラテラル・シンキングはどう違う

思考法・発想法については、論理的思考といわれるロジカル・シンキングと、エドワード・デボノ博士の約50年前の著作『水平思考の世界』を源流とするラテラル・シンキングに大別することができます。前者が思考法に適しているとすれば、後者は多様化した現代の発想法向きかもしれません。まずは「水平思考」から

#### 『水平思考の世界』より

昔、一人のロンドンの商人が、ある金貸しから莫大な借金をして困っていた。もし借金が返済できない時は、監獄に放り込まれるという時代である。年老いた醜い金貸しは、その商人の美しいティーンエイジャーの娘に目をつけて、ある取引を提案した。もし娘をくれるなら、借金を帳消しにしてやろうというのである。

途方に暮れる商人と娘を前にして、金貸しは運を天に任せようといって一つのくじを作った。

大きな空のさいふの中に黑白2つの小石を入れるから、娘にその一つをつかみ出せといった。もし娘が黒い石を選べば、娘は金貸しの妻となり借金は帳消しにする。また白い石を選んだ時は、娘はいままで通り父親と一緒に住んでいてよく、借金も帳消しにしてやろうというのである。

娘が石を選ぶのを拒めば、父親は監獄送りとなり、娘はたちまち食べていけなくなってしまう。商人は仕方なしにこれに同意した。そこで金貸しは、三人が立ち話をしていた商人の庭の、小石を敷き詰めた小道から、二つの小石を拾ってきてさいふに入れた。ところが、**娘は金貸しがさいふに入れた石が二つとも黒い石だったのを、目ざとく見つけて、思わずゾッとしてしまった。**金貸しは父親と娘に運命を決める石を選べといって容赦なく迫った。

#### こうした事態で、もしあなたが不運な娘だったら、どうするだろうか？

また、もしあなたが娘に何か助言できるとしたら、何とやってもらいたいだろうか？

#### このような場合どんな思考法をすればよいだろうか？

参考文献：『水平思考の世界』(エドワード・デボノ著/講談社/昭和44年刊)